

科学哲学者の視点から

村上祐子

国立情報学研究所

科学哲学者と図書館員の奇妙な類似

- 古典的描像：個別科学を（専門家なみ、あるいはそれ以上に）知った上で、
 - 科学哲学者：進むべき方向性を示唆
 - 図書館員：研究活動を支援（レファレンス、サブジェクトライブラリアン）

古典的描像は科学の細分化・技術の 進歩により時代遅れに

- 個人の能力ではもう分野ごとカバーするのは不可能。
- 情報(文献)発見のおおかたは機械に置き換わった。

現状：外からのアプローチに変化

- 科学哲学：科学社会学
- 図書館：文献計量学

それでも研究者は支援が必要

- どこへ向かったらいいのか? > 哲学者
- どうしたら現在の研究活動を効率化できるか? > 図書館員

この文脈での機関リポジトリ

- 「新」サブジェクト・ライブラリアンの領域
＝「研究支援としての情報流通システム構築」
- 論文に限らず、データなど研究活動に伴うすべての情報が対象。
- IRはその一環、あるいははじめの一步。